

# 神奈川県の学童保育

## 「第 45 回神奈川県学童保育研究集会（かな研）」 2 月 13 日(日)にフルスペックで開催

久しぶりにフルスペックでの開催でした！

- ・2018 年度は全国研が神奈川で開催された関係で全体会講演のみでした。
- ・2019 年度は新型コロナウイルス感染症により開催直前で中止になりました。
- ・2020 年度は完全オンラインで午前午後とも分科会のみで開催でした。

今年も完全オンラインではありましたが、4 年ぶりに全体会と分科会の両方を行なうことができたことは、本当に良かったと思います。この 2 年間でオンラインでの参加にも慣れてきた方も多く、「対面ではできなかったが、画面を通して顔がみられて良かった」という声も聞かれました。

開催日の直前には全国での感染者数が 10 万人を超えるという中での開催でしたが、実行委員長の矢澤さん（横浜・保護者）からも「このコロナ禍で、しかも今年に入りオミクロン株の流行により、神奈川県もまん延防止等重点措置の対象地域となり、また各地で学級閉鎖や休校などが相次いだりと皆様も大変なご苦勞をされているかと思いますが、そのような中で、みんなで前を向いてこのような研究集会で情報交換や交流することは、とても意味のあることだと思います。」とのご挨拶がありました。

実際、始まってからはコロナのことを忘れ、以前の「かな研」と同様、参加者の学童保育への熱い想いがあふれた研究集会だったと思います。

「同じように悩み、同じように喜び、同じようにがんばっている人がこんなに大勢いるんだ」と感じられる場としての研究集会の良さを改めて実感できました。

今回参加できなかったみなさんへ

もう一つ、自宅でも電車のなかでも参加できる研究集会があります。『日本の学童ほいく』誌も、研究集会と同様に、全国の保護者や指導員の想いや子どもたちのいきいきとした姿があふれています。

『日本の学童ほいく』誌で、学童保育の仲間とのつながりを感じながら、今秋の全国学童保育研究集会や来年の「かな研」を楽しみにしていきましょう！

（文責：小森伸二）

2 月 13 日(日)の雪が舞いそうな寒い中、オンラインで開催した「第 45 回かな研」には、県外も含め 15 地域 315 人の参加があり、午前の全体会、午後の分科会を学びあいました。

全体会や分科会の検討の為に実行委員会を組み、9 月から約 6 か月にわたって取り組んできました。

全体会では、県連協会長からの基調報告のあと杉田真衣先生による記念講演「子どもと共に今を生きる～一人ひとりを受けとめ、だれのことも排除しない支援を～」を参加者全員で共有し、また午後には「ようこそ学童保育へ」「これからの感染症対策」「子どもに向き合うときに大切にしたいこと」「子どもとインターネット」「障害のある子どもの理解と生活作り」「アンガーマネジメントを学ぶ」「子ども同士のかかわり」「子どもの生活を伝えあう」「神奈川県の学童保育の現状と課題」の 9 分科会に分かれて研修や交流を持てるよう世話人が中心となって進めました。（各分科会についての詳細は 2～3 頁をご覧ください）

全体会の中で、（前回は書面でしたが）動画または臨席して来賓よりあいさついただくことができました。

県次世代育成課 川上課長からは現場の尽力への感謝の言葉が語られ、また県内の実施状況、県の役割としての人材育成への取組について報告があり、さらに臨時特例事業への県の姿勢を示されました。

また、県議連の小川会長からはコロナ禍での保育へのねぎらいの言葉、ワクチン接種に関する情報、そして我々との意見交換の場を作り学童保育がしっかりと勧められるように希望している旨話されました。

所属する団体の規約の制約によりオンデマンド配信ができない講師がいたため、分科会の配信はできませんでしたが、全体会については、杉田先生の承諾をいただくことができ、2 月 15 日(火)～23 日(水)まで見逃し配信を行いました。

全体会、分科会とも完全オンラインでの実施でしたが、地域連協の協力によりスムーズに運営ができたことに、感謝しています。





# 参加者からの 分科会のここがよかった！



## 第1分科会 ようこそ学童保育へ

～保護者と指導員で作る子どもの居場所～

講師 八木晶子さん（横浜市夢学童保育指導員）

- 学童保育の成り立ちと、現在も変わらない指導員の方の子どもとの遊びや生活への意識を伺えたことは興味深かったです。その一方で、時代が変化している中での保護者運営の在り方、保護者同士のバランスなど、再考させられることも多かったです。【横須賀市保護者】
- 事例もあり、とても分かりやすかったです。また、子どもを預かっている以上、つい「危ないよ、気をつけて」と声にしがちだったのですが、八木先生のリスク・ハザードの力を身につけていく教育も大切だと改めて感じる事ができ、子どもたちを信じて今後遊んでいけたらと思いました。【三浦市指導員】

## 第2分科会 これからの感染症対策

～新型コロナを軽視せず、悲観せず～

講師 高崎麻美先生（富山大学医学部小児科学教室助教）

- 新型コロナについて、データに基づいた知識を得ることが出来ました。日々の保育で、子どもたちに必要以上に恐怖心をあおってしまっていて窮屈な関係になっていることを改めていきたいと思います。大人がしっかり予防して、もっとも大切な学童の本来の役割がぶれないようにしたいと思いました。【平塚市指導員】
- コロナ対策でモヤモヤしていたことがある程度整理できたと思います。基本的な対策をすることが重要で、サブタイトルの通り、「軽視せず、悲観せず」ということが改めて分かりました。【横浜市指導員】

## 第3分科会 子どもと向きあうときに大切にしたいこと

～からだところに関わる立場から～

講師 塩澤真穂美先生（東京都養護教員）

- 様々な子どもに対してや感染対策に対してなど、次々とでる事象に様々な立場からかわり、対応しようとする働きかけについて話しが聞けたことは、心強くもありがたく感じました。他職種との連携の大切さはどの職種にも該当すると感じます。【横須賀市保護者】
- 先ずは、自分の物差しが絶対ではない事を反省しました。また、帰って来た子供を観察する時には、身体の様子、生活に目を向けるように心がけたいと思います。暑さ、寒さ、アレルギーの状態、気圧による影響、欠食や寝不足などの具体的な事が心の状態や行動に影響するという事も子供と接する時には、意識したいと思います。そして何よりも子供達を余裕をもって客観的に見れるように、自身が心身共に元気でいられるように心がけていきたいと思います。【綾瀬市指導員】



事前収録に伺ったときに **パチリ！**

記念講演講師の杉田真衣先生が手にしているのは、『日本の学童はいく』2021年4月号と9月号です。

はいく誌21年4月号～9月号で講座を担当されていた杉田先生は、全国的に高い人気があり、研究会等で引っ張りだこ。

それで兵庫県連協、千葉県連協との三者で話し合い、今回のかな研では先生の同意を得て、事前収録することになりました。

## 第4分科会 子どもとインターネット

講師 松田直子先生（NPO 法人 e-Lunch 理事長）

- インターネットが身近になっている今、今後の子どもとのルール作りの参考になればと思い参加しました。実際に起こったトラブルや具体的にすぐに活用出来る方法なども聞けたのでとても参考になりました。子どもに話す際にも「こういう事があったんだって。だから、私達はこうしていこうね。」とお互いにスムーズに話をすることが出来たので良かったです。【平塚市保護者】
- 小学生からスマホを持つ時代なので、親も一緒にインターネットのルールや危険性を学ぶ必要があると感じた。持たせないという選択ではなく、持った上で必要な制限をかけたり、上手く付き合っていけるようにしたいと思った。講師の先生のお話はとても聞きやすく、3時間はあっという間でした。【綾瀬市保護者】

**第 5 分科会 障害のある子どもの理解と生活づくり**

～受入れから保護者理解まで～

講師 岸川学先生 (神奈川県立保健福祉大学講師)

- 問題行動は子どもの背景や環境によるもので、本質なところ目をつける、理由を探るところがとても考えさせられました。【大和市指導員】
- 子どもから見えている世界の疑似体験も出来て、とても良い経験になりました。かえるクラブの、小学校との連携に驚きました。学校によって、全く違うんだなと思いました。学童のみでの視点、学校のみでの視点、ではなく、学童、学校、家庭からのそれぞれの視点、意見が聴けると、とても良い支援が出来ると思いました。【横須賀市保護者】

**第 6 分科会 アンガーマネジメントを学ぶ**

～怒りの感情と上手につき合うには～

講師 須田愛子先生 (アンガーマネジメントコンサルタント)

- 怒りをコントロール出来る方法がある!と聞いて、是非その方法を身に付けたいと思いました。今日の講義で衝動・思考・行動のコントロールを知る事で、自分を変えられる可能性がある事を学びました。まず深呼吸や 6 秒待つ事から始めます。【三浦市指導員】
- 言葉で勝手にイメージしていたアンガーマネジメントですが、一から説明してもらい、とてもよくわかりました。小グループに分かれて意見交換するのもちょうどよい時間だったのもあり、楽しく話せました。【川崎市指導員】

**第 7 分科会 子ども同士のかわいについて**

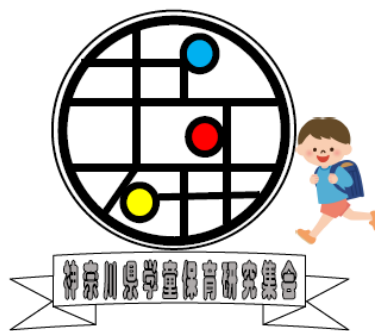
語り合い、確かめよう(グループ交流)

- それぞれの指導員が持っている悩みについて、経験の抱負な皆様の意見が聞けました。他の人の話しでも自分のことに共通していることもあり、自分の気になることだけでなく、2 倍も 3 倍も勉強になりました。【横浜市指導員】
- 「こうであるべき」と言う指導員の視点をついつい押し付けてしまいがちだと話が出ました。「学童はやり直し、とり直しができる場所で、失敗の中からどうやったら楽しい時間になるのか、自分たちで考えていくのが学童」と言う永松さんの言葉に大人の自分が救われました。【横須賀市指導員】

あなたはわかりましたか？

今回のかな研のロゴマークは横須賀市の指導員

椎名智尚さんによる「かな研」です！

**第 8 分科会 子どもの生活を伝えあう**

講師 加藤陽子さん (横浜市こどもの国学童指導員)

- 保護者と指導員が情報共有をし、子どもの様子を伝え合うことが非常に大切だと思いました。子どもたちの帰る場所として安心できる環境作りはもちろんですが、子どもたちが毎日帰ってきて、その時の気持ちを話せるようなコミュニケーションを取らなければならないと思いました。特に重要だと思ったのが保護者の方と職員の保育の価値観を共有することだと思いました。【茅ヶ崎市指導員】
- 10 年以上学童で保育をしてきて、何度も壁にぶち当たってきましたが、またもや保護者対応でいきづまり、この分科会を受講させていただきました。皆さんと先生のお話を聞いて、「違うなー、テクニックじゃない！大事なのは信頼関係だ！」と初心に戻った瞬間がありました。基本は信頼関係！何年たっても日々勉強ですね。【岩手県大船渡市指導員】

**第 9 分科会 神奈川県の学童保育の現状と課題**

～保護者負担の軽減と法人化の問題を考える～

- アドバイザーの前田さんがおっしゃられていたように、父母会運営や NPO 等の運営体制に関係なく、学童保育には当事者である父母が関わりながら、より良い学童にしていくことが重要であることが、再確認できました。【大和市保護者 OB】
- 色々な意見、でも、共感できる意見がたくさん飛び交い、3 時間では短い時間に感じられました。分科会の中でも、一番難しそうな・とっつきにくそうなタイトルでしたが、たまたま、市内で保護者負担や法人化について検討する予定があったため、座学の姿勢で参加するつもりでした。ですが、前田さんの話(課題の投げかけ)も分かりやすく、小森さんの進行も、皆の意見をうまくかみ砕いて繋いで下さり、気づけば夢中で「ウンウン」と聞き入っていました。【三浦市保護者】



## 2021 年度オンライン研修会（全 12 回）を実施しました

2021 年度は 5 月～1 月の間にオンライン研修会を 12 回実施し、県外も含め 14 市町村より全部で 413 人の参加がありました。（当所 14 回で企画しましたが、第 5 波の影響で 12 回になりました）ベテラン指導員である講師からの、具体的な事例をあげながらの講義に対し、「実際の子どものやりとりに、心がほっこりしました。」「今日これからの保育に取り組む力になりました。」との声をいただきました。皆様から寄せられた感想を抜粋してご紹介します。

- 指導員になりたての私にとっては、指導員として念頭に置くべきことや子どもと関わる姿勢を確認できた、とても勉強になった講義でした。（第 1 回「学童保育の役割と指導員の仕事」）
- コロナ禍での保護者会や行事の実施について、他のクラブの情報などから参考にしたいと参加しました。今年の夏休みは、何が出来るかなと悩んでいましたが、学童保育の役割の基本に帰り、行事にこだわらず、今、出来る事を子ども達と楽しむ！で行こうと思いました。少し楽になりました。（第 2 回「グループ交流 保護者会、行事などについて」）
- 「保護者に子供の様子を伝えることは仕事である」というお話しが心に残りました。その為に毎日子供達と丁寧に接し、様子をみることの大切さ、そしてその子供の様子を保護者の方に伝えていくことを学びました。（第 4 回「子どもの様子を伝える（通信・連絡帳）」）
- 子どもにとって遊びは自由で自主的であるべきということを再確認できました。また子どもにとって学童保育は肩肘張らずに、普段自分を出せる場であること、指導員はその場作りをしなければいけないとあらためて感じました。（第 6 回「学童保育の生活とあそび」）
- 今回の研修は障害のある子どもでしたが、特に障害認定がなくても、トラブルを起こしやすい、仲間と上手く関われない子どもに対しての対応や理解をする上で参考になりました。（第 7 回「障害のある子を含めた生活づくり」）
- 学童の仕事に就いてまだ 1 ヶ月です。今日の研修は大変参考になりました。子ども達と向き合うときにいつも心にとめておけるようにしたいです。まだこれからいろいろ感じる事ができるとおもいます。（第 8 回「指導員の仕事・日々の記録」）
- 学童の仕事に就いて約 4 ヶ月です。意外に多いなと思ったのが雑務です。うっかりするとそちらを覚えるのに必死になってしまっ、子どもをみるという大事なことを忘れてしまいそうになっていました。まだまだ未熟ですが、子どもに話しかけられたら、耳を傾けられるようにしたいと思いました。（第 12 回「指導員のチームワーク」）

### 第 47 回全国学童保育指導員学校・南関東会場

とき 2022 年 6 月 5 日（日）10 時 00 分～16 時 30 分  
オンラインシステム zoom を利用 受講料 2500 円（一人あたり）

全体会 10 時 00 分～12 時 00 分（入室開始 9 時 15 分）

パネルディスカッション 今大切にしたい学童保育の“なかま”

～つながる・つなげる 子どもたちが安心してあそび、育ちあうために～

コーディネーター 高橋 誠（東京都文京区指導員）

パネラー 飛鳥井 祐貴（神奈川県横須賀市指導員）・小野 さとみ（東京都町田市指導員）  
後藤 隆章（静岡県富士市保護者）

講 座 13 時 30 分～16 時 30 分（基礎 3、実践 4、理論 2、特別 1 の計 10 講座）

（詳細は『日本の学童はいく』6 月号巻末を参照ください）

## 2022 年度の『日本の学童ほいく』

講座「保育とは、未来を語り創ること」全 6 回  
大宮勇雄(元福島大学)

連載 ようこそ！鉱物の政界へ  
門馬綱一(国立科学博物館)

連続エッセー 心の散歩道  
松崎運之助(元・夜間中学教員)

**一緒に読むなかまを増やしませんか？**  
**話しかけるきっかけに！**  
**共通の話題づくりに！**

特集テーマ（一部、実際のタイトルとは異なります）

2022 年 4 月号 学童保育とは  
5 月号 学童保育の保護者会・父母会  
6 月号 学童保育指導員の連携・協力・学びあい  
7 月号 子どもと遊び  
8 月号 学童保育連絡協議会  
9 月号 障害のある子どもの保育  
10 月号 異なる年齢の子どもたちの生活  
11 月号 子どもとインターネット  
12 月号 学童保育の施設・環境  
2023 年 1 月号 食物アレルギー  
2 月号 全国学童保育研究集会  
3 月号 学童保育指導員の労働条件



### 私のおすすめ『日本の学童ほいく』

毎月の運営委員会で、「私のおすすめ『日本の学童ほいく』」を地域持ち回りでご紹介いただいています。

2 月は太和市保護者 OB の弓気田さんからのおすすめです。

2021 年 10 月号の「学童保育の施策」という特集記事の中から「川越市における学童保育指導員の正規職員化について」という記事を紹介します。これは公設公営クラブで 2020 年 4 月から「会計年度任用職員制度」が導入されるにあたり、指導員の立場から自分たちの働き方を考え直し、結果として正規職員（リーダー）やフルタイム会計年度任用職員などを実現したものです。公設公営の指導員という立場から、指導員への労働形態に関するアンケート調査や実際の仕事内容の明確化などの現状把握から、指導員の役割、業務の目的などを確認したうえで、担当課に提案し、連協組織との連携などもあり、組織の変革を成功するという、私のいる大和では中々考えづらいことを実現していて興味を持ちました。また、課題解決の手法としても、現状把握から目的の明確化、目標値としての労働形態の改善と、ロジカル(QC ストーリー)的に議論を進めているように感じられ、対市交渉的にも参考になると感じました。

そして、3 月は海老名市指導員の須賀さんからのおすすめです。

2022 年 3 月号講座『子ども像』から『子どもたち観』へ（P.46～）を拝読しました。

後半部分に『子どもたち観』を持って子どもの生活と遊びをとらえることが重要ではないでしょうか。」と記されてありましたが、これは支援員だけが「子どもたち観」を持つだけではなく、保護者さんにもその「観」を伝え、押し付けるのではなく知ってもらう事、また、保護者さんの「観」も知っていく事で、子どもの本当の姿が見えていくものと思い、改めて保護者との関わり大切さを痛感しました。

文章の冒頭に保護者さんの手記がありましたが、自分ならどう声をかけるだろう？と講座を読み終えた後に改めて考えてみました。「野球もサッカーもできるくらい友達がたくさんいるんですね！」「下手って言われても、それでも一緒に遊ぶのって、他の子からしたらきっと何か別の魅力があるんでしょうね！」この様なことを、脳内保護者に伝えてみるのでした。

### 2022 年 3 月号～4 月号に掲載されている神奈川からの投稿

<2022 年 3 月号> 特集 学童保育の安心・安全な生活を考える

<2022 年 4 月号> 特集 春☆「ただいま」「おかえり」学童保育

◆特集「たくさんの出会いとつながりに支えられた日々」 川村まりさん〔平塚市保護者〕

🌸 子どものひろば 寛人さん〔横浜市 4 年生〕

◇実践ノート「学童保育を休みがちな子どもとのかかわりを考える」 加藤利江さん（横須賀市指導員）

## 活動報告(2022 年 2 月～2022 年 3 月の主な活動報告)

2 月 5 日(土)～6 日(日) 2 月全国運営委員会  
 2 月 13 日(日) 第 45 回神奈川県学童保育研究集会  
 2 月 19 日(土) 第 57 回全国研実行委員会①  
 2 月 23 日(木・祝) 全国ブロック会議(関東甲信越)

3 月 1 日(火) 第 45 回かな研実行委員会⑥

他 第 1 木曜日 定例運営委員会に付随し、定例役員会、定例事務局会議を実施  
 また、次年度に向けた取組への検討を始めています。

## ♪ 三 浦 市 連 協 だ よ り ♪

三浦市には、8 つの小学校があり、学童クラブが 4 つ、支援の単位は 6 つあります。市内すべての学童クラブは、保護者会が運営しています。仕事や子育ての傍ら、運営者として指導員の雇用や会計等、学童保育の運営に携わる事は、保護者にとって大きな負担でもあります。保護者と指導員が共に協力しあいながら日々の運営を行っています。

三浦市放課後児童クラブ連絡協議会(以下、市連協)は、2002 年 3 月に発足し、21 年目を迎えます。2 ヶ月に一回、開催される定例会議は、各学童クラブの様子や指導員の活動報告も含め、様々な情報を交換する場となっています。新型コロナウイルス感染症の流行以降は、感染状況を考慮しながら対面開催とオンライン開催を使い分けて、会議を開催しています。

市連協の活動としては、今年度も新型コロナウイルス感染症の流行により、例年開催していた議員懇談会や地域イベントへの参加ができませんでした。市への要望についても、キャリアアップ処遇改善事業や送迎支援事業、利用料の減免措置など、新規予算に関する要望は実現せず、今後の活動の重点課題の一つとなっています。また、長年続く慢性的な指導員不足もクラブ運営に大きな影響を及ぼしており、早急な対策が必要な状況です。

しかしながら、市連協の発足当初から、担当課の課長が定例会議に参加してくださっており、担当課との距離感が非常に近いことが三浦市連協の特徴です。この利点を生かし、担当課と協力しながら様々な課題の解決と学童保育の更なる発展に向けて引き続き取り組んでいきたいと思っています。



放課後児童クラブどろんこ



放課後児童クラブたんぽぽ



放課後児童クラブひまわり



学童保育とびうおクラブ

6 月号の「地域連協だより」は  
 大和市連協の予定です。  
 お楽しみに！



神奈川県学童保育連絡協議会 HP  
<https://kanaken.onushi.com/>



## <2022 年度の主な予定>

- 6 月 5 日(日) 第 47 回全国学童保育指導員学校・南関東会場〔オンライン〕
- 6 月 26 日(日) 第 47 回県連協定期総会〔横浜市総合福祉センター・オンライン併用〕
- ●月●日(日) 秋の学習会・県連協拡大運営委員会
- 10 月 29 日(土) 第 57 回全国学童保育研究集会・全体会〔オンライン〕
- 10 月 30 日(日) 第 57 回全国学童保育研究集会・分科会〔オンライン〕
- 2 月●日(日) 第 46 回神奈川県学童保育研究集会

\*その他、運営委員会は毎月第 1 木曜日、役員会は運営委員会の前の週の木曜日に実施しています。  
 また、オンライン研修会は現在企画中です。